

災害をいかに地域に伝えるか

—南アジアにおける気象学と地域研究との協働—

■実施日時と場所

2016年2月6日(土) 13:30-19:00

京都大学東南アジア研究所稲盛記念館2階東南亭

■参加者の発表テーマ

1. 浅田晴久(奈良女子大学)ほか
「インド・アッサム州、ムクタプル村の10年間」
2. 赤松芳郎(京都大学)
「牧民ブロッパの牧畜と近年の変容」
3. シシール・ショポン・チャクマ (HSDO)
「The Contemporary Problem of the Shifting Cultivation in Chittagong Hill Tracts, Bangladesh」
4. ムハンマド・ラシェドウル・ラーマン (バングラデシュ農科大学)
「Shrimp Based Cropping Systems and Rural Economy in the Coastal Area of Bangladesh」
5. 山根悠介(常葉大学)
「バングラデシュにおける大学生スタディーツアーと突風防災ワークショップ」
6. 福島あずさ(神戸学院大学)
「アッサム州における降水量地域特性」
7. 村田文絵(高知大学)
「インド・メガラヤ州の極端降雨現象」
8. 田上雅浩(東京大学)
「インド亜大陸における降水同位体比と水蒸気起源の長期変動」
9. 木口雅司(東京大学)
「ヴィエンチャンにおける水物質循環に基づく生活用排水系の検討」
10. 南出和世(桃山学院大学)
「バングラデシュ農村の若者の都市移動」

■成果

当日は発表者を含めて23名もの参加者があり、分野の垣根を越えて、南アジア各地域における自然災害や気候変動、社会の変容などについて、さまざまな議論が交わされた。異分野の最新成果を共有することは参加者にとって大きな刺激となり、来年度以降も同じメンバーで競争的資金に応募し、研究会も継続していくことが確認された。

■課題

メンバー間の連携、特に分野が異なる者同士がいかに普段から情報(現地情報・活動内容など)を共有するかについて、また外国人研究者との連携についてもいかにコミュニケーションを保つかが課題として挙げられる。また、蓄積された研究成果をどのような形で社会に(現地に)発信するのかという点についても引き続き考えていかなければならない。

